

インミタカ通信

発行： **NP0法人 障害者生活支援センター インミタカ**

発行日：2017年3月23日

No. 40

法人のページ

～特集～ 「命」を問う。

企画① 「だから」全ての命は、その存在だけで価値がある

ぼっふ施設長 金子・派遣部所長 小林

金子：「だから」全ての命は、その存在だけで価値がある、というテーマで、「だから」の理由を考えて！って編集部から依頼がきたよ。

小林：理由…う～ん…。

金子：命って言っても色々あるよね、人もそうだし、虫も、植物も命あるものだよ。命が大事、尊いもの、その存在に対して2つとないもの…、“大切”ということはあるけど命ってなんだろうね…。そもそもどうやって生まれたんだろう。

小林：難しいですね、ちゃんと説明できません…。

そう言えば僕の好きな漫画のセリフで、命は大切とは逆の考えで、「金かねは命より重いおも」なんて格言かくげんがありますよ。

金子：すごい言葉だね、「命は金では買えない」じゃないの？

小林：いやいやその言葉の真意はですね…。

(その後あーでもない、こーでもないという話はなしが延々と続く…。)

金子：話が広がり過ぎたのと、話題が重いので、結構疲れたね。和むのなかね～。

小林：人間の命、人間、にんげん…。「にんげんっていいな」って曲知っていますか？

「まんが日本昔ばなし」というアニメのエンディングテーマのアレです。

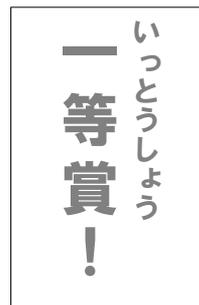
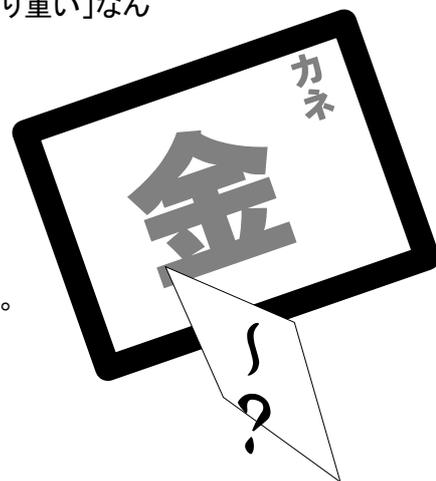
金子：動物の視点から人間を見た歌ね。いいね、和むね。

1番の歌詞の出だしが「くまのこ見ていたかくれんぼ、おしりを出した子こ一等賞いっとうしょう」

かくれんぼで、おしり出して一等賞いっとうしょうは不可解ふかかいだけど…。

小林：1番の出だしは確かに謎ですね(笑)、2番の歌詞の出だしは「モグラがみていた運動会、ぶりっ子元氣だ一等賞いっとうしょうですよ、ぶりっ子元氣だから一等賞！なんとなく意味がわかりますね～。和みます～。

金子：うーん「おしり出してても」「ぶりっ子元氣」でもなんでもいいんだけどさ、なんでいつも一等賞いっとうしょうになんないといけないのかなあ。(2面に続く)



例えば仕事に置き換えると、今、社会って誰よりも先に動き、効率よく仕事をして、
成果を上げる人が一等賞になって、成果が上げられない人は負けとなって、憂き目を見るよね。

どんなに仕事に対して努力を重ねている人でも、結果が良くなければ、それで負け…。

成果を上げることだけを求められる。それって、“にんげんってやだな”だよ。

小林：いや～、今の社会に照らし合わせると和まないですね。

成果が上げられなくても、その人がいることで周囲が助けられていることって、いっぱいあるんですけどね。

金子：人には個人差があり、得意不得意もみな違うのだから、その違いを認め合い、**適材適所**で**共存共栄**できればいいのにな。

小林：は…？結局のところ、社会的に働けるとか、働けないとか、そういうことを含めて、本当はどうでもよいことで、**一人ひとりが大切な存在**で…、それだけでいいような気もしますね。だって、その人がいるからがんばれる。その人がいたから今の自分があるって、ことが多くありますもんね。

金子：それは、あらゆる人にとってそうだよな。人は様々に影響しあって、それぞれが存在しているんだと思うよ。だから全ての命は、その存在だけで価値があるんだよな。

小林：でも、「だから」の理由としては、まだしっくりこないなあ。

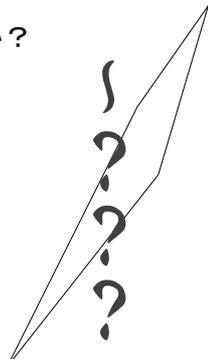
金子：そんなの、俺にだってわかんねえよ。そもそも答えなんか出るものなの？

小林：確かに。この議論って、本当に堂々巡りしますよね。…金子さん！それでいいんじゃないですか？

「だから」の中身は「言葉にできない」、これですよ。

この答えが出たから、意味のある議論ができたよ、僕は思いますよ。

なんだかんだで、上手くまとまりましたかね？



～特集～ 「命」を問う。 **企画② 障がい当事者が「命」を叫ぶ**

その1 ～「オレは障がい者Aじゃない！オレは梶島剛之だ！」～

津久井やまゆり園に献花に行った身体に障がいのある梶島さんと話しました。

「そうか～」と思うところがあつたので、要約して書かせていただきます。

(派遣部コーディネーター滝)

容疑者は特定の個人を狙ったのではなく「障がい者」だから殺害したと言われている。そんなのおかしい。もし誰かが俺を恨むのであれば「障がい者A」ではなく「梶島剛之」として恨めと思う。それであれば少なくとも「命を持った人」として扱われている感じがするが、「障がい者A」ではそこに「命」が感じられない。

だから、被害者の名前が公表されないことにも違和感を覚える。名前を公表しない理由も分かるが、ただ俺は、障がい者A・B・Cではなく、実名を出してほしいと思う。それによって被害者の「命」を社会が感じるはずだから。ただ単に記号で済ませてほしくない。

これは声を大にして言いたい！障がいがあってもなくても、ここにある命に変わりはない！
生きているんだ。

きかく しょう どうじしゃ いのち せい
企画② 障がい当事者が「命」を叫ぶ

その2 ～「冗談じゃない!!」～

ゆうせいし そうはんたい バリアフリープロジェクト『ないす害』代表・高次脳機能障がい者：TASKE

さくねん つくい やまゆり 園で犯人の元職員の「障がい者なんていなくなればいい」と言う一方的な思い込み(=優生思想)による19人が死亡、26人が重軽傷を負った戦後最悪の大量殺傷事件が発生した。

ひ たど につれ 中 には「税金の無駄遣い」などを理由に犯人の優生思想に賛同する輩もいる事をしりショックを受けた。冗談じゃない。障がい者であろうが、健常者であろうが命の重さは変わらない。選別してはならない。

げんじつ もんだい ぜいきん むだづか になつてるのは障がい者ではなく現在の総理や政治家なのは間違いない。

このままでは、このような事件を2度と繰り返してはならないどころか模倣犯が出て来てしまうのではないかと言う危機感を感じた。

12月26日、津久井やまゆり園正門前に設置されたた献花台が撤去される事を受け、「このままでは、事件までもが風化してしまうのではないか?」「この先、優生思想に賛同する輩が増えてしまったら障害者の居場所すらなくなってしまう」など自問自答を繰り返す中で自分にも出来る事はないかと思い、「優生思想反対バリアフリープロジェクト『ないす害』を正式に立ち上げる事にした。各所でミーティングを繰り返しながらその時々参加者と意見交換し、如何に優生思想反対を主張しながらイベントや講演会なり皆で何をやるか決めていきたい場、そして、障害者ができるだけ住みやすい街、社会を築き上げていくことが目的である。共に居場所を作り上げていきたい方々の参加を心よりお待ちしております。

きかく
企画③ まとめ「命の重さに変わりはない、みんな今を生きている」と伝えていく

りじちょう：みやまこむすこ
(理事長：宮城永久子)

やまゆりの事件のあと、世の中に「障がい者は幸せなはずがない」「障がい者は生きている価値が無い」という声が上がった。それはもしかしたら、悪意のあるものではなく、世の中の人たちが普通に抱えている率直な思いなのかもしれない。私たちはそのことを重く受け止めて、二回に渡って幸せのあり方や命の重みについて特集を組んで掲載してきた。

障がいがあるとなかろうと、この社会の中で同じ命を持って精一杯生きていることには違いない。それは今回の二回に渡る特集で、どれだけ皆さんの心に届いたであろう。

もし皆さんのごく身近なところに障がいのある人がいて、普段から一緒に食事をしたり、一緒に出掛けたり、生活を共にしていたとしたら、今隣にいるその人に対して「この人が生きている意味はあるのだろうか?」なんて疑問を抱くだろうか。

命の重さは計り知れないけれど、障がいのある人たちが生きること喜びを抱きながら、今を生きること、地域の多くの人に少しでも伝えていきたい。それがきっと私たちの役割。

だから、知ってほしい、障がいのある人たちのことを。障がいのある人もない人も、共に地域で暮らす仲間になれた時、障がいを基準に人を見るのではなく、“その人”としての見方にかわるのではないかと思う。

梶島さんは言う。「オレは障がい者Aじゃない。オレは梶島剛だ!!」

「あるヘルパーのステキな一面」^{いちめん}

(インミタかヘルパー: 信耕^{しんこう}ミミ)

ある時はヘルパー、またある時はコマ撮りアニメの作家をしている信耕と申します。

コマ撮りアニメとは、物を少しずつ動かして撮影し、つなげて見ると止まっているものが動いて見えるという、よくNHKの教育番組でやっていたようなアレです。

アニメと福祉はま～ったく違う世界だから、普段は分けて生活をしていたのですが…。去年、縁があつてタイ、ミャンマー、ラオス、カンボジアの知的障がいのある人々と一緒にアニメを作るという、アニメと福祉が一体化したプロジェクトに参加することになり、「微笑みの国」タイに行ってきました！



障がいの個性も様々な総勢12人。4カ国とも別々の言語。その12人で一つの作品を作り上げるという一見無茶なお題でしたが、自分の姿や街の絵を描いて切り取って、それをあーでもないこーでもないと画面上で皆で動かしてアニメを作っていました。

発見といえば、言葉はあまり問題でないこと。私と各国

の言葉が通じないのはもちろんのこと、参加者同士でも国が違えば言葉は通じません。が、日が経つにつれ、国を超えて仲良くなって、お互いに助け合ったりという光景も見られました。

そして障がいもわかり。これはできるかな？あれはどうだろう？と余計な心配も無用！私の方が助けられるという場面も多々。結果、撮影は無事終了！みんなで協力してエベレストに登って降りてきた感じでした！

そんなアニメ“POVO”はこちらで見られます。お腹を空かせたワニのお話。

https://www.youtube.com/watch?v=n2B_MlclTnE

また是非やりたいです。今度はバリとかタヒチ辺りで？(観光目的か～い！)

「保護者」という表記について

理事長 宮城永久子

前号のインミタか通信で、利用者のご家族から頂いた記事の表記に、利用者本人がすでに成人している方にも関わらず、無意識に「保護者」という用語を使用してしまいました。障がい者は、何もできず守られている(保護されている)人ではなく、当たり前のように生きていく一人の人間。これは、インミタか通信を愛読下さっている利用者の方からご指摘頂き、ハッと気づかされました。

これまでも、何気なく使用している言葉の中に、当事者がいないがしろになっている表現があったかもしれない。それは、目の前にいる当事者を無視してヘルパーに話しているのと同じこと。私たちは、今一度、一つ一つの仕事を振り返り、意識し直さなければならないと、襟を正しました。

リレートーク

「地域で生きる」カフェ

星と風のカフェ 店長 菊地裕子

10年ほど勤めた「ワークセンターゆめ」(就労支援継続B型事業所)から、昨年7月に「星と風のカフェ」(ぴゅあネット事業)に異動して、早くも半年が経ちました。今一番に感じることは、地域や人との繋がりの大切さです。

私は大学に在籍中から、障がいのある方へのスポーツ療法に惹かれて、人に関わる仕事がしたい、障がい者・児を支援していく事ができたらと思うようになりました。そこから、障がいがある子のための体操教室を経て、ハピネスセンターくるみ幼稚園や児童養護施設、三鷹市内の小学校の補助員、ヘルパーなどの仕事を経験すると同時に、三鷹市の体育指導委員や三鷹ウエストの運営など、地域でのスポーツ活動にも携わってきましたが、そのおかげで多くの出逢いや繋がりを得られてきたと、実感できたからです。

「星と風のカフェ」で働くようになって、今まで繋がりのあった多くの利用者さんやご家族の方々とお会いする機会に恵まれました。初めて出逢ったときは幼稚園生や小学生だった子たちが、大人になってそれぞれの事業所や職場で頑張っている姿を知ることも出来ました。以前、担当させてもらった利用者さん達が、各事業所の一員として納品に来て「仕事を教えてくれたのちゃんと覚えてるよ」「楽しく事業所に通ってお仕事がんばっています」などと伝えてくれることもあり、嬉しいかぎりです。その他、地域活動やスポーツ活動でお世話になっている三鷹の方々が、私が勤めるようになってから「星と風のカフェ」を初めて知ってくれ、お店に顔を出してくれることや、イベント等で商品を使って宣伝してくれる事もあります。そんな人と人との繋がりを感ぜられた時に「地域で暮らしてきてよかった」と感謝の気持ちで一杯になり、私自身が地域に支えられて生きているように、みなさんにも地域や人との繋がりを感ぜてもらえるようなお店にしていける事ができたらと思うのです。

実際、事業所の帰りに一人で息抜きに来てくれたり、休みの日にヘルパーさんや大切な人を連れてカフェを利用してくれる方も増えていて、お店に来た他のお客さまとお話しや交流をする姿も見られます。先日、小学生の生活科の授業の一環としてお店の取材を受けたのですが、「どんな人にも優しいお店ということがわかった」と発表してくれていて、子どもたちの感受性に感心させられるとともに、この子たちが将来、ずっと地域と繋がりを持っていってくれたらと願い、知ってもらふ事の大切さを感じました。

障がいのあるなしに関わらず、地域に開かれた気軽に立ち寄れるお店として、「地域で生きる」人々のほっと一息できる場所を目指していきます。それとともに、障がいのある方たちが「地域で生きている」ということを、星風の商品を通して伝えていく事が私の使命だと思っています。

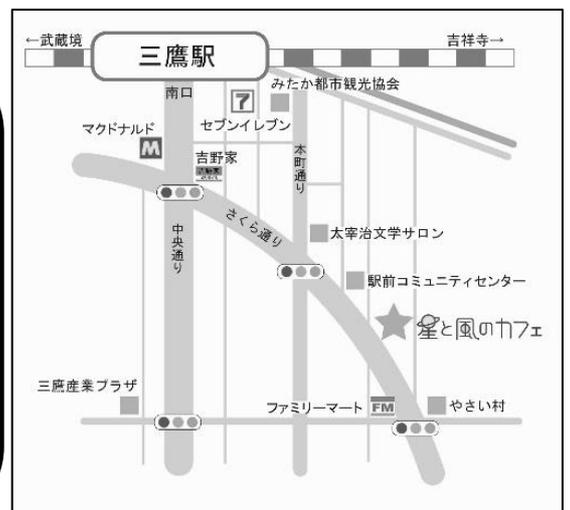
星と風のカフェは、三鷹市内の障がい者施設・作業所などで作られた自主製品のアンテナショップです。手作りのお菓子・お弁当・パン、かわいい雑貨などを販売しています。

カフェでは、コーヒー・紅茶・ココア(300円)・カルピス(150円)を、クッキー付きでお楽しみいただけます。

【連絡先】三鷹市下連雀3-8-13 ☎ 0422(44)2255

【営業日】火曜～土曜 11:30～19:00 日・月・祝日休み

<http://www.hanano-kai.jp/hoshi-cafe/>



がつ 11 月 18 日 (金) 知的障がい利用者懇談会 & スナックでの打ち上げ!

ヘルパー派遣を利用している方と年1回行っている懇談会。
これまでとは違って、今回はお楽しみの要素をなくし、「平日夜に、話だけをする」として開催したところ、男性3人、女性1人が参加してくれました。

そしてこれも新たな試みとして、前半は男女別れて(もちろん職員も)話すことにしました。詳しくは書けませんが(所長の名譽を守るためにも…)、当然男性陣は男性ならではの話題がいろいろ出て盛り上がりました。後半、女性陣が合流すると、途端にお行儀よくなる男性陣…。

そして実は今回はここからが本番だったのではないかと打ち上げで、男性陣は前半の勢いそのままに、三鷹駅近くの某スナックへ。最年長のMさんは「最近、仕事ができなくなってきたなあ」なんて愚痴をママにこぼし、最年少のカラオケ好きのOさんは、普段唄わない曲(さそり座の女など)を「スナックに合わせてるんですよ～」と唄い…。その中では一番静かだったIさんも、帰る時間になりお店を出た途端に「いやあ、楽しかった～」とつぶやいていました。

懇談会、打ち上げを通して、普段のやり取りでは分からなかった想いや個々の歴史が少し見え、その方の今後の生活や、そこにどうヘルパーが関わっていくかを共に考える際に、いかせそうな気がしました。

Mさんに「棟梁! まだまだ元気じゃない」と声をかけデュエットしてくれたり、しっかり食べられる料理を用意してくれたりしたママ、(一同より)ありがとうございました!
(派遣部コーディネーター: 合田晃)

がつ 1 月 21 日 (土) ヘルパースキルアップ研修「自己決定とは？」

三鷹市市民協働センターで、インみたかヘルパースキルアップ研修を行いました。
今回講師で来ていただいたのは、西東京市を中心に活動されている、
「NPO法人自立生活企画」代表の身体に障がいのある、益留俊樹さん。
障がい者が主体的な生き方をしていくには、介助者に対して指示をすることが必要で、それが「自己決定」であり、自立であると考え、事業を展開したこと。
しかし、その考えだけでは上手いかないうちに現状に直面し、試行錯誤の末、自己決定について新たな捉え方を見出し、介護の基本は利用者・ヘルパーとの人間関係であるという考えを、教えていただきました。



当日は、35名(職員含め)の参加があり、大盛況の研修となりました。参加いただいた皆様、ありがとうございました!
また、当日参加できなかった方、ご興味ある方、研修の様子を撮影したDVDをお貸しできますので、派遣部までお問い合わせください!
(派遣部所長: 小林延芳)

※インみたかでは、介護ではなく介助という言葉を使いますが、益留さんの言葉のまま記載しました。



昨年12月17日 ぽっぷ恒例のクリスマス会を開催しました！

ぽっぷのページ

今回は、みたか街かど自立センターと共催し、会場はホームつぼみ（牟礼にあるグループホーム）の多目的室をお借りして行いました。年末の寒い時期でしたが、会場には陽の光がさんさんと降り注ぐ中、ホームつぼみに入居されている方も多数参加して下さり、ぽっぷの利用者や職員を含めると総勢38名という大所帯。

まずは、みんなでシャンパンを片手にかんぱ〜い（アルコールが苦手な人はジュースで）！！次に、職員合田のピアノにあわせて、参加者それぞれが得意な曲を唄い、盛り上がりました。

NHKの番組「バリバラ」でおなじみのTASKEさんも出演を快諾して下さい、シュールなネタで会場のあちらこちらから笑いが起こっていました。（宮城永久子）

車いすに乗った元気いっぱいのお姉さん、草間晶子さんから一言感想を頂きました。

去年初めてクリスマス会を、ホームつぼみで行いました。初めはどんなものかと乗り気ではありませんでした。でも障がい者の人たちを見ると笑顔一杯。また継続で聞くといいですね。



ぽっぷのある風景 今回は「年金」

ぽっぷには、日々様々な相談が寄せられます。その中でも、比較的多く受ける相談内容は、「年金」の申請手続きのことで。日常生活の制限等に伴って生じる特別の出費を余儀なくされることの多い障がい者にとって、地域社会の中で生活していくために、必要最小限の安定した収入があると安心材料にもなります。

だけど、その申請手続きはちょっと煩雑。そこで、ぽっぷ顧問弁護士の工藤先生に「年金」について教えて頂きました。

こんにちは。東京グリーン法律事務所の弁護士の工藤杏平と申します。「年金」は、普段の生活をしていれば誰もが一度は考えなければいけない大切なものです。



Q.そもそも「年金」とは何か？

「年金」は、抽象的な意味としては、「定期的・継続的に給付される金銭」と言われています。ただ、一口に年金と言っても種類は様々です。大きな年金の種類としては、公的年金と私的年金があります。また、年金の給付される事項（理由や契機）は、老齢給付、障害給付、遺族給付などがあります。

誰でも平等に年を取りますし（老齢）、不慮の事故などで怪我や病気になることもあります（障害）。また、自分も含め家族がお亡くなりになるという事態も等しく訪れます（遺族）。

このように、「年金」は国民全員に対して等しく訪れる事態に備えた、いわゆるセーフティネットのような機能を果たしています。

ただ今、年金について、わかりやすい資料を作成しているところです。より、詳しい解説や情報をお求めの方、ぽっぷまでお問い合わせください。（資料完成予定：2017年7月頃）



捨てればゴミ、

あつめれば 車いす!?

くるま



職員 酒井泰葉

ぼっぶと就労支援センターかけはしでは、年1回、おしゃれと身だしなみを学ぶ場「おしゃれ講座」を開催しています。それに協力いただいているバーバーイシイ代表の理容師：石井賢一さんは、

「集めよう、カラー剤チューブの力」プロジェクトとして、理美容室で使い終わった業務用カラー剤チューブを集めて買い取り業者に買い取ってもらい、そのお金で車いすを購入。地域の社会福祉協議会や介護施設へ贈呈する活動をしています。

約2年の活動で、200店のサロンに広まり、これまでに集まったカラー剤チューブは1180kg！贈られた車いすはなんと6台！

地域でモノがこんなふうに循環するなんて、おもしろいですよね！

「集めよう、カラー剤チューブの力」プロジェクト事務局「BBリサイクル推進会」(代表 バーバーイシイ)

サイト：<https://bbrecycle.jimdo.com/>



他にも、リサイクルの取り組みをしているところをご紹介します。

図書館や大学から英字新聞をあつめて 350m¹の缶を6本入れても大丈夫！な英字新聞バッグ

千葉県木更津市 地域作業所 hana	メールアドレス : info@npo-cw.net
♪サイト・オンラインショップはこちら！ → http://hana-work.net/	

「繰り返すことによって限りあるものを永遠なるものにするのです (伊勢神宮の式年遷宮*の展示の中にある言葉)」

*式年遷宮:20年に一度、伊勢神宮の社殿を造り替えて神様がお引越しする行事。

インみたか通信 感想



今回の通信はいかがでしたか？
みなさまからの感想が、わたしたちのエネルギーです！
左記、インみたか 派遣部までお寄せください。
(メール・電話・FAX・直接来所して、などどんな方法でも！)

目次

- P1~3 法人のページ 特集「命」を問う。
- P4 派遣部/法人のページ あるヘルパー/保護者という表記
- P5 法人のページ リレートーク「地域で生きる」
- P6 派遣部のページ 派遣部の日記
- P7 ぼっぶのページ クリスマス会/ぼっぶのある風景
- P8 ぼっぶのページ 捨てればゴミ、あつめれば車いす!?

三鷹市障がい者相談支援センター ぼっぶ
〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-18-2F
TEL 0422-71-0901 FAX 0422-26-5141
メール poppu@dream.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/>

障害者生活支援センター インみたか 派遣部
〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A 102
TEL 0422-71-0902 FAX 0422-24-6266
メール in-mitaka@iaa.itkeeper.ne.jp
ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/inmitaka/index.html>

障がい者計画相談センター くも
〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A 102
TEL 0422-26-7229 FAX 0422-26-7229